

第2学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日時 令和3年7月1日（金）5校時
生徒 2年B組 男18名女8名 計26名
指導者 岩 舘 良 子

1 題材名 B衣食住の生活 （4）衣服の選択と手入れ（開隆堂）

2 題材の目標・評価

（1）目標

- ①衣服と社会との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れについて理解するとともに、それらに係る技能を身につける。 【知識及び技能】
- ②衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題解決する力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】
- ③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

（2）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・衣服と社会生活とのかかわりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	<ul style="list-style-type: none">・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 題材の指導にあたって

衣服の選択と手入れについて、課題をもって、衣服と社会生活との関わりについて理解し、衣服の選択、着用及び手入れに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣服の選択、日常着の手入れの仕方を工夫することができるようにすることをねらいとしている。衣服を快適に着用するためには、見た目や好みだけでなく、手入れの仕方含めて選択する必要性があることを理解させたい。そのために、衣服の材料や特性を理解し、洗剤の使用や汚れに応じた日常着の手入れができるように指導していきたい。文字や説明だけでは感じにくい繊維の種類や洗剤のはたらきについては実験で特性を可視化し、結果を自身の言葉やキーワード、イラストなどで表現し、思考を客観視させたい。

題材を通して健康、快適、安全な衣生活を営むための視点を明確にし、自立のために必要な技能や知識を身に付けると共に、よりよい生活を送るために必要なことは何かを考えさせたい。

4 指導計画（ 小題材名 「衣服の選択と手入れ」全8時間 ）

時	主な学習内容	評 価		
		知・技	思・判・表	主体性
1	衣服の手入れ 「衣服の素材」「繊維の種類」 実験①「燃焼による繊維の特性」	○		○
2	衣服の手入れ 「日常着の洗濯計画」の立案		○	
3 (本時)	衣服の手入れ 「洗剤の種類と選び方」 実験②「界面活性剤のはたらき」	○		
5・6	衣服の手入れ 「汚れの種類と手入れのしかた」 実習「しみ抜き」 「日常着の洗濯計画」の見直しと振り返り	○	○	
7・8	衣服の補修・保管 「まつり縫い」「千鳥がけ」「スナップ付け」「アイロンがけ」	○		

5 本時の指導

(1) 目標

洗剤のはたらきと使用量について理解させる。

(2) 本時の評価規準

洗剤のはたらきと使用量について理解している。【知識・技能】

(3) FS 授業づくりに関わる手立てや工夫について

協働的な追究：

洗剤を使用することで見た目も清潔で通気性や吸水性などの衣服の機能が保持されることを確認する。汚れを落とすために洗剤が欠かせないが、洗剤使用時に何がはたらいて汚れが落ちるのか課題を設定する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動 ・予想される生徒の反応等	■指導上の留意点及び評価 ・指導上の留意点 ◆評価
<p>問 い を も つ</p> <p>5 分</p>	<p>1 なぜ、洗濯をするのかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのままだと見た目が悪くなる。臭いが生じる。 ・洗濯前後のデータの比較から清潔に衣服を着用するためには見た目だけでなく機能性保持のためにも洗濯（手入れ）が必要であることを確認する。 <p>2 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学習課題 汚れが落ちるしくみを理解しよう</p> </div>	<p>・洗剤を使用することで見た目も清潔で通気性や吸水性などの衣服の機能が保持されることを確認する。汚れを落とすために洗剤が欠かせないが、洗剤使用時に何がはたらいで汚れが落ちるのか課題を設定する。</p> <p>FS【問いをもつ】</p>
<p>協 働 的 な 追 究</p> <p>35 分</p>	<p>4 実験の手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4種類の実験の説明。 ・実験で使う道具について及び注意事項の説明。 <p>5 実験をする。</p> <p>ビーカーA：水 ビーカーB：洗剤液</p> <p>A・Bの違いを3人グループごとに観察・記録する。</p> <p>実験① ビーカーに毛糸を入れ、沈み方を観察・記録する。 終わったら毛糸を取り出す。</p> <p>実験② ビーカーにラー油の付いた布を入れ30秒そのまま置く。その後はしでかき混ぜ、布を取り出す。<u>汚れの落ち方や、布に付着している汚れの状態、水面に浮いている油の形を観察・記録する。</u></p> <p>実験③ ビーカーにカーボンブラックを入れ、はしでかき混ぜる。カーボンブラックの状態を観察・記録する。</p> <p>実験④ ③のビーカーに布・毛糸を入れ、はしでかき混ぜた後、布・毛糸を取り出す。布・毛糸に付着している汚れを観察・記録する。</p> <p>6 実験結果から分かる洗剤のはたらきを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果を発表する。 ・記録を黒板にまとめ共通点や適切な表現を確認・整理する。 	
<p>自 己 を 見 つ め る</p> <p>10 分</p>	<p>7 洗剤使用量と汚れ落ちの関係をグラフから読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗剤液は目安を超え濃くなっても洗浄力は高まらない。 ・表示に記載されている使用量の目安を確認する。種類によって目安の量に違いがあることを確認する。表示を確認して使用することが経済的であり環境にも良いことを確認する。 <p>8 洗剤のはたらきについてまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①振り返りを記入する。 ②振り返りの発表。 	<p>◆洗剤のはたらきと使用量について理解している。</p> <p>【知識・技能】</p>